

オバマが7か国も爆撃したと自慢

【訳者注】大統領が、自分は何か国を爆撃したと言って威張らなければならないような国、それがアメリカで、アメリカの本質だと、論者は指摘している。確かにオバマのみならず、我々の知っている米政治指導者すべてについて、そう言えるだろうと思わせる。「我が国のチャーチル的戦士たち」についての皮肉も、的をついている。「チャーチル」は、日本人から言えば、フランクリン・ルーズベルト（真珠湾攻撃を知っていて放置した）や、トルーマン（原爆投下を命じた）に置き換えてもよい。多くの欧米の政治指導者がそうであったように、この3人ともフリーメイソンであり、自分たちエリート階級以外の人間どもが、どうだろうと無関心だった。欧米（西側）文化そのものがそうであることが、今やっとわかってきた。自分たちの行動の結果どんな悲劇が起ころうと、それが異文化・異民族の話であれば、彼らは心を動かされず、報道もしない。

最後に、非常に高い支持を得ている（この時点で+64）、この論文に対する読者のコメントを訳して載せておく。我が国でもこの事情は変わらない。

By Glenn Greenwald

August 8, 2015 (Information Clearing House)



「私は必ずしも、子供に対してドローン攻撃を命じているのではない。しかしそうするときは、私は自分がノーベル平和賞を身につけていることを、忘れないようにしている。」

オバマ大統領は昨日、アメリカン大学で、イランとの取引を**弁護する演説**を行い、この取引に反対する人たちへの、異常に無遠慮で攻撃的な反論を行った。イスラエル政府とそのネオコン同調者に向けられた、オバマの猛烈な批判は、彼らが本当に求めているのは政権転覆と戦争だという事実を含めて、正確で、怯むことのないものだった。イスラエル政府のこの取引への反対について、彼はこう言った——「単に一時的に、大事な味方や同盟者と摩擦を引き起こすからと言って、私の最上の判断に反対の行動をするのは、憲法に則った私の義務を否定しようとするものだ。」

<https://www.washingtonpost.com/news/post-politics/wp/2015/08/05/text-obama-gives-a-speech-about-the-iran-nuclear-deal/>

演説として評価するなら、これは、主要な反対者をあまりにも激昂させたこの取引を、効果的に弁護する見事なレトリックであった。“報告”と称してこの取引について、イラク恐怖論的な論文を、次々に載せている Bloomberg View の編集者は、オバマは「彼に賛成しない人たちをただ否定するだけだが、この論争は堂々と戦って勝つべきものだ」と苦情を言った。

<http://www.bloombergvie.com/articles/2015-08-05/obama-puts-fear-before-facts-on-iran>

上院多数派リーダーの Mitch McConnell は、自分が「特に侮辱された」と宣言し、オバマの発言は「礼儀の範囲をはるかに超えるものだ」と言った。我が国のチャーチルの戦士たちは、これほど神経のか細い方々なのだ——つまり、自分たちが絶えず殺している遠く離れた世界の人々に対しては、サイコパス的に鈍感でありながら、彼らと、彼らの動機に向けられた無礼な言葉には、ひどく、ひどく傷つき、「特に侮辱された」と言うほどに。

オバマは、イランとの取引に反対する者たちを正確に言い表したのみならず、自分自身と自分の軍国主義的行動の記録をも正確に述べた。「テロリストを愛している」という彼への攻撃に対する自己防衛として、オバマは誇らしげにこう言った——

私は最高司令官として、必要な場合には武力を用いることを躊躇しなかった。私は何万というアメリカの若者を命令して戦場に送った。・・・

私は7か国で軍事行動を命令している。

「7か国で軍事行動を命令している」と言っているのは、爆弾を落とす命令をしたという意味であり、彼は7つの異なった国々で、何千という無辜の人々を死に追いやったのであり、たまたまそのすべてが圧倒的にムスリムだった。

<https://firstlook.org/theintercept/2014/09/23/nobel-peace-prize-fact-day-syria-7th-country-bombbed-obama/>

このリストに含まれるのは、彼が大統領に就任したとき仕掛けた戦争を、2度に及んでエスカレートさせた1国（アフガニスタン）、彼が大いに宣伝して部隊を引き揚げさせたが、結局は、新しい空爆作戦を命ずることになったもう1つの国（イラク）、非常にまれだった爆撃を、クラスター爆弾と“識別攻撃”（signature strikes）を特徴とする、アメリカの継続する暴力に変えた2国（パキスタンとイエメン）、彼が全く気まぐれに爆撃政策を継続した

国（ソマリア）、議会が彼に認可を与えなかったにもかかわらず、全く新しい戦争を始め、結果、悲惨な瓦礫にしてしまった国（リビア）である。ここには彼が承認して支援した、同盟国による侵略（ガザ）、また彼が可能にした代理戦争（現在の、サウジによるイエメンの荒廃化）、この他、彼が始めたサイバー攻撃の新しいフロント全体、彼が助けて地位につけた沢山の独裁者、また、彼がまだ確認していない密かな爆撃（フィリピン）は、含まれていない。

http://www.nytimes.com/2015/04/24/world/asia/drone-strikes-reveal-uncomfortable-truth-us-is-often-unsure-about-who-will-die.html?_r=0

<http://www.nytimes.com/2012/06/01/world/middleeast/obama-ordered-wave-of-cyberattacks-against-iran.html>

<http://www.brookings.edu/research/opinions/2012/03/05-drones-philippines-ahmed>

軍事歴史家で元米陸軍大佐 Andrew Bacevich が、オバマがシリア爆撃を始めた後で、ワシントン・ポストに書いたように、「シリアは、米軍が侵略または占領し、あるいは爆撃し、米兵がそこで人を殺し、また殺されたイスラム世界で、少なくとも 14 番目の国になった。しかもそれは 1980 年以降のことだ。」これは、それ自体事実であり、“ムスリムの暴力”を偏執的に繰り返す民族主義的な西洋人を、明らかな自己嘲笑的ジョークにするものである。

最近の対外政策の動きで、オバマの残した遺産となるポジティブなものが 2 つある——キューバとの関係の正常化と、今度のイランとの取引の合意である。しかし彼自身が昨日、誇らしげに言ったように、この 2009 年ノーベル平和賞受賞者の残したものは、全体的に見れば、無辜の人々の死体の山を築いた、暴力、軍国主義、侵略の記録である。オバマが、自分の爆撃した国がいかに多いかを誇る必要（または欲望）を感じずということ、それにイラン論争で、主流メディアの彼への批判が、ただ、攻撃と武力を用いるのに消極的すぎるということ——このことはオバマについて、しかしそれ以上にアメリカの政治文化について、多くを物語っている。そして、それが物語ることで、良いものは何一つない。

[読者 “jack” によるコメント]

問題はオバマではない。問題はアメリカの民衆だ。

沈黙していることによって、何千何万という外国人の虐殺を見逃しているのは彼らだ。

私は、かつては、彼らの政府が外国人に対して恒常的に行っている虐殺について、真実を知らないでいる彼らを許していた。しかしもうそれはできない。なぜならこれらの虐殺の事実

は、誰でも簡単に知ることができるからである。プロパガンダを行う主流メディアの方が、何百万のアメリカ人に好まれているのかどうかは、関係ない。彼らはインターネットを通じて、彼らの政府が、祖国防衛や“民主主義”の名において犯している、身の毛のよだつ犯行の証拠を、容易く読むことも見ることもできるからだ。

彼らは、アメリカの残虐行為に対する国家規模の反発であるべきものを、受け付けないようにしているが、それは外国人の生命など、平均的なアメリカ人にとって、どうでもよいからだ。

彼らは、フットボールや、TVの“真相”番組など、つまらない物で目をふさいでいる。彼らは、彼らの政府の語る、君たちは“テロリスト”から保護された、選ばれた者たちだという話を聞いて満足している。彼らは、あまりにも教育がお粗末なために、戦争自体がテロリズムで、それが犠牲者たちの家族の間に、怒りと激しい憎しみを掻き立てていることを理解できないでいる。

彼らは殺しを楽しみ、自分たちと違う者なら誰であろうと、殺すことを何とも思っていない。

オバマやブッシュや、そういった連中が何の罪をも問われないのは、アメリカ人がそれを許しているからである。